

1 外国為替の仕組み

1. 為替の仕組み

為替とは、現金を使わずに、資金移動の指図だけで金融機関等の仲介により金銭の受け渡しを済ませる仕組みのことをいいます。

(1) 内国為替の仕組み

大阪のBさんから商品を購入した東京のAさんが、Bさんに購入した商品の代金を送金する例を見てみましょう〔図表1-1-1〕。

AさんはC銀行に行きBさん宛てに代金を振り込んだとします。振込みを受けたC銀行は、Bさんの取引銀行であるD銀行にAさんからBさん宛ての振込みがあった旨を通知し、Bさんの口座への入金を指図します。これが**資金移動の指図**です。指図を受けたD銀行は、Bさんの口座に指図どおりの金額を入金し、資金移動が完了します。Bさんは、自分の口座から自由に現金（代金）を引き出すことができます。

この例では、Bさん（債権者・受取人）とAさん（債務者・送金人）との債権・債務の関係が、D銀行（債権者）とC銀行（債務者）との債権・債務の関係に振り替えられたこととなります。

日本国内の銀行は、中央銀行である日本銀行に当座預金の勘定（口座）を開設しており、1日の銀行取引がすべて終了すると、このような銀行間のその日の互いの貸し借りは、当座勘定（口座）を利用した振替え（口座間の資金移動）により清算されます。

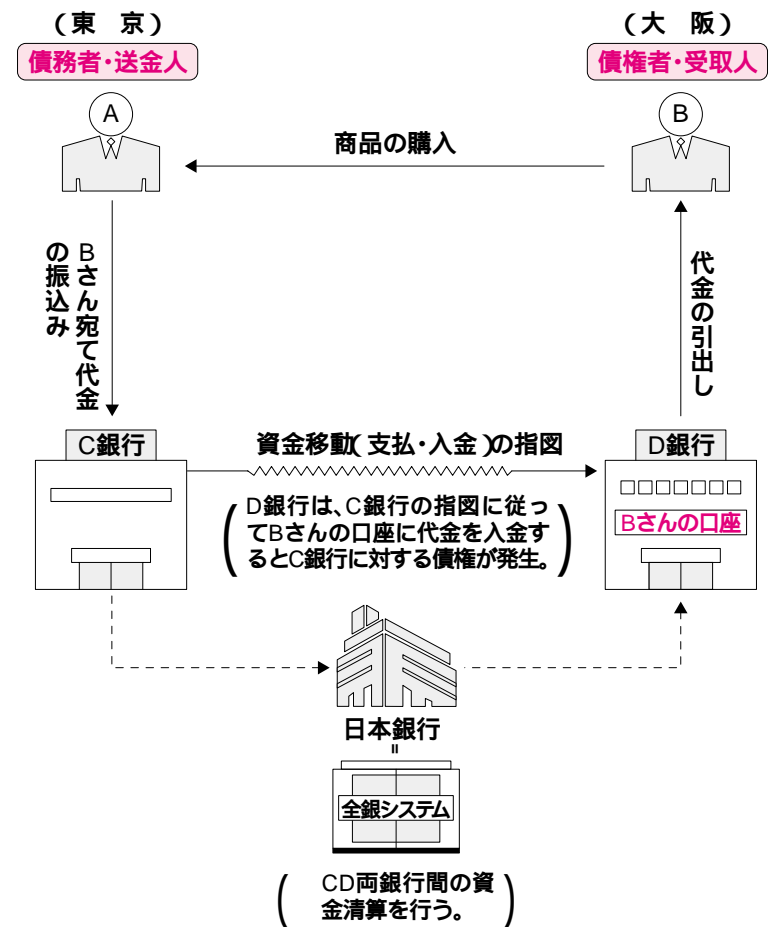
この清算は、全国銀行データ通信システムによって行われ、現金の移動はまったく発生しません。

(2) 外国為替の仕組み

外国とのお金のやりとりである外国為替も、基本的な仕組みは内国為替と同じですが、内国為替の場合と大きく異なる点が2つあります。

1つは、**送金依頼時と送金受取時とで通貨が異なること**です。もう1つは、日本銀行に相当する**国際的な中央銀行が存在しないこと**です。

〔図表1-1-1〕内国為替の仕組み



そこで、アメリカのB社から商品を購入した日本のA社が、B社に購入した商品の代金を送金する例を見てみましょう〔図表1-1-2〕。

まず、A社は代金（日本円）を日本のC銀行にもって行き、アメリカへの送金を依頼します。依頼を受けたC銀行は通貨をドルに交換し、B社の取引銀行であるD銀行にドルでの支払を指図します。D銀行は指図に従って代金（米ドル）をB社の口座に入金します。B社は、D銀行の口座からドルの現金（代金）を引き出すことができます。

この例では、内国為替同様にB社（債権者・受取人）とA社（債務者・送金人）の債権・債務が、D銀行（債権者）とC銀行（債務者）間の債権・債務に振り替えられたこととなりますが、日本銀行に相当する国際的な中央銀行が存在しないためにC、D銀行間の貸し借りは清算されないこととなります。そこで、個別に**コルレス契約**（為替取引契約）を結び、その契約に基づいて互いの貸し借りを清算することとなります。